



ポリシーの管理

この章は、次の項で構成されています。

- 「ポリシー」 (P.7-1)
- 「ストレージ ポリシー」 (P.7-3)
- 「ネットワーク ポリシー」 (P.7-6)
- 「システム ポリシー」 (P.7-9)



(注)

当該アプライアンスにログインしてからでないと、以下の手順はいずれも実行できません。

ポリシー

Cisco UCS Director は、セルフサービス ポータルを提供します。このポータルでは、管理者が設定した事前定義ポリシーに基づいて、割り当て済みリソースから成るプールを起点に仮想マシンのプロビジョニングが実行されます。

ポリシーとは、新しい VM がシステム リソースの可用性に基づいてインフラストラクチャ内でプロビジョニングされる場所と仕組みを決定する一連のルールのことです。

Cisco UCS Director では、VM をプロビジョニングするために、コンピューティング、ストレージ、ネットワーク、システムという 4 つのポリシーを設定する必要があります。

コンピューティング ポリシー

コンピューティング ポリシーによって、プロビジョニング中に使用されるコンピューティング リソースのうち、グループ要件または負荷要件を満たすものが判断されます。

管理者は、コンピューティング ポリシーでさまざまな条件を併用してマッチングし、詳細なポリシーを定義できます。



(注)

条件の組み合わせによってはセルフサービス プロビジョニングの際にホスト マシンが 1 台もない結果になりかねないので、コンピューティング ポリシーの全フィールドについて十分に理解しておくことをお勧めします。

コンピューティング ポリシーの作成

- ステップ 1** [ポリシー]>[コンピューティング]の順にクリックします。
- ステップ 2** [VMware コンピューティングポリシー] タブを選択します。
- ステップ 3** [追加] (+) をクリックします。
- ステップ 4** [コンピューティングポリシーの追加] ダイアログボックスで、以下のフィールドを入力します。

名前	説明
[ポリシー名] フィールド	ポリシーの名前。 (注) カタログを定義する際は、この名前が使用されます。
[ポリシーの説明] フィールド	ポリシーの説明。
[クラウド名] ドロップダウンリスト	リソース割り当てを行うクラウドを選択します。
[ホストノードまたはクラスタスコープ] ドロップダウンリスト	導入の範囲を選択します。 (注) すべてのオプションを選択するか、選択したオプションを含めるか、または選択したオプションを除外するように指定すると、導入の範囲を狭められます。選択した内容に応じて表示される新しいフィールドで、必要なホストまたはクラスタを選択できます。
[リソースプール] ドロップダウンリスト	リソース プールを選択します。
[ESX タイプ] ドロップダウンリスト	ESX のインストール タイプ (ESX と ESXi の一方または両方) を選択します。
[ESX バージョン] ドロップダウンリスト	ESX のバージョンを選択します。
[条件の最小値] チェックボックス	満たすべき条件に対応しているチェックボックスを1つ以上オンにします。これらの条件を満たさないホストは、処理の対象から除外されます。条件を複数選択した場合は、選択した条件のすべてを満たす必要があります。
導入オプション	
[テンプレートのオーバーライド] チェックボックス	オンにすると、テンプレートのプロパティがすべてオーバーライドされます。CPU とメモリについては、カスタム設定を入力するオプションが用意されています。
[vCPU 数] フィールド	vCPU のカスタム数を指定します ¹ 。1 つの VM に対する vCPU の数は、ホスト ノードまたはクラスタの範囲として選択されたコアの総数を超えないようにしてください。
[CPU 予約 (MHz)] フィールド	VM 用に予約する CPU ¹ 。この予約は、指定された vCPU の数に左右されません。
[CPU の制限 (MHz)] フィールド	VM に対する、CPU の制限 ¹ 。CPU の制限値は、ホスト ノードまたはクラスタ用に選択された範囲によって決定されます。
[CPU 共有] ドロップダウンリスト	CPU 共有の割合 (低、ノーマル、高のいずれか) を選択します ¹ 。複数の VM 間で CPU リソースの奪い合いが発生したときに CPU リソースを取得する VM は、CPU 共有の設定によって決定されます。
[メモリ] フィールド	VM のカスタム メモリ ¹ 。
[メモリ予約 (MB)] フィールド	VM 用に予約するメモリ ¹ 。この予約は、指定するメモリによって左右されます。

名前	説明
[メモリ制限(MB)] フィールド	VM に対するメモリの制限 ¹ 。メモリの制限値は、ホスト ノードまたはクラスタ用に選択されたスコープによって決定されます。
[メモリ共有] ドロップダウンリスト	メモリ共有の度合い (低、ノーマル、高のいずれか) を選択します ¹ 。複数の VM 間でメモリ リソースの奪い合いが発生したときにメモリ リソースを取得する VM は、メモリ共有の設定によって決定されます。
サイズ変更オプション	
[VMのサイズ変更を許可] チェックボックス	オンにすると、プロビジョニング前に VM のサイズを変更したり、既存の VM のサイズを変更したりすることができます。
[vCPUの許容値] フィールド	VM のプロビジョニング中、または既存の VM のサイズ変更中に使用される vCPU の範囲 ² 。選択されたクラウド (vCenter) が 5 以上で、その VM のバージョンが 8 である場合に限り、VM のプロビジョニング中またはサイズ変更中に 8 を超す範囲が表示されます。このフィールドで指定した値だけが表示されます。
[メモリの許容値(MB単位)] フィールド	VM のプロビジョニング中、または既存の VM のサイズ変更中に使用されるメモリの範囲 ² 。 例 : 512、768、1024、1536、2048、3072、4096 など。このフィールドで指定した値だけが表示されます。
[フォルダに展開] フィールド	このポリシーを使用して作成された VM はカスタム フォルダに展開できます。Cisco UCS Director では、グループ名に基づいてフォルダ名を自動的に作成できます。「\${GROUPNAME}」と指定すると、そのポリシーを使用するグループ名に基づいてフォルダが作成されます。新規のフォルダ名も既存のフォルダ名も指定できます。

1. このオプションは、[テンプレートのオーバーライド] を選択した場合に表示されます。
2. このオプションは、[VMのサイズ変更を許可] を選択した場合に表示されます。

ステップ 5 [追加] をクリックします。

ストレージポリシー

ストレージポリシーは、データストアのスコープ、使用するストレージのタイプ、容量の最低条件、遅延などのリソースを定義するポリシーです。

ストレージポリシーでは、マルチディスクに対応した追加ディスクポリシーを設定できるほか、サービスリクエストの作成中にデータストアを選択するオプションを指定できます。

マルチ VM ディスクに対するストレージポリシー

Cisco UCS Director では、複数のデータストア上で、マルチディスクによる VM プロビジョニングを実行できます。

ディスクは、システム、データ、データベース、スワップ、ログという 5 つのタイプに分類されます。システム ディスクポリシーを先に設定し、次にそれ以外のディスクを要件に応じて設定できます。ディスクタイプ別にディスクポリシーを設定することも、ディスクごとにデフォルトのシステム ディスクポリシーを選択することも可能です。



(注) マルチディスクに対応したテンプレートのストレージポリシーを作成する場合は、第10章「[マルチディスク VM プロビジョニング](#)」を参照してください。

Cisco UCS Director では、VM プロビジョニングのサービス リクエストを作成している最中にデータストアを選択できます。また、サービス リクエストの作成中にエンドユーザがデータストアを選択できるかどうかを指定するオプションが用意されています。リストに表示されるデータストアは、サービス リクエストの作成中、vDC に関連付けられたストレージポリシーで指定したスコープ条件によって異なります。

ストレージポリシーの追加と設定

- ステップ 1** [ポリシー]>[ストレージ]の順にクリックします。
- ステップ 2** [VMware ストレージポリシー] タブを選択します。
- ステップ 3** [追加] (+) をクリックします。
- ステップ 4** [ストレージリソース割り当てポリシーの追加] ダイアログボックスで、以下のフィールドを入力します。

名前	説明
[ポリシー名] フィールド	ポリシーの名前。カタログを定義する際は、この名前が使用されます。
[ポリシーの説明] フィールド	ポリシーの説明。
[クラウド名] ドロップダウン リスト	リソース割り当てを行うクラウドを選択します。
システム ディスク スコープ	
[データストアのスコープ] ドロップダウン リスト	導入のスコープを狭める場合は、すべてのデータストアを選択するか、選択したデータストアを含めるか、または選択したデータストアを除外するように指定します。
[共有データストアのみの使用] チェックボックス	オンにすると、共有データストア以外は使用されなくなります。
ストレージ オプション	
[ローカルストレージの使用] チェックボックス	オンにすると、ローカルストレージが使用されます。デフォルトはオンです。
[NFSの使用] チェックボックス	オンにすると、NFS ストレージが使用されます。デフォルトはオンです。
[SANの使用] チェックボックス	オンにすると、SAN ストレージが使用されます。デフォルトはオンです。
[条件の最小値] チェックボックス	満たすべき条件を1つ以上選択します。これらの条件を満たさないデータストアは、処理の対象から除外されます。条件を複数選択した場合は、すべてを満たす必要があります。
[テンプレートのオーバーライド] チェックボックス	オンにすると、テンプレートのプロパティがすべてオーバーライドされます。使用するシン プロビジョニングやカスタム ディスク サイズなどのカスタム設定を入力するオプションが用意されています。
VM のライフサイクルのサイズ変更オプション	
[ディスクのサイズ変更を許可] チェックボックス	オンにすると、エンドユーザはプロビジョニング前に VM のディスク サイズを選択できるようになります。

名前	説明
[メモリの許容値(GB単位)]フィールド	VM のプロビジョニング中に選択するディスク サイズ値のカスタム範囲。例：1、5、10、50、100、500、1024、5120、10240 など ¹ 。
[スコープからのデータストアの選択をユーザに許可します]	オンにすると、エンドユーザはサービス リクエストの作成中にデータストアを選択できるようになります。

1. このオプションは、[ディスクのサイズ変更を許可] がオンの場合に表示されます。

ステップ 5 [次へ] をクリックします。

ステップ 6 [追加のディスクポリシー] ペインで、設定するディスク タイプを選択します。

ステップ 7 [編集] (鉛筆) をクリックしてディスク タイプを編集します。

(注) デフォルトでは、当該ディスクのディスク ポリシーは [システムディスクポリシー] の内容と同じになります。

ステップ 8 [ディスクポリシーエントリの編集] ダイアログボックスで、[システムディスクポリシーと同じ] チェックボックスをオフにしてディスク ポリシーを設定します。

ステップ 9 [送信] をクリックします。

ステップ 10 [エントリの編集] ダイアログボックスで追加のディスク ポリシーを設定します。

(注) この手順は、ストレージ リソース割り当てポリシーの設定方法とほぼ同じです。

ステップ 11 [送信] をクリックします。

(注) 作成したストレージ ポリシーと追加のディスク ポリシーを併用するには、作成したストレージポリシーと VM プロビジョニングに使用する vDC を関連付ける必要があります。

(注) ポリシーの中で設定した追加のディスク ポリシーを使用する場合は、マルチディスク テンプレートのカタログを作成するとき、[単一データストアのすべてのディスクをプロビジョニングします] オプションを必ずオフにしてください。カタログ作成の詳細については、第 8 章「[カタログの管理](#)」を参照してください。

仮想ストレージ カタログ

仮想ストレージ カタログを使用して、ストレージ ポリシーをカスタマイズできます。

仮想ストレージ カタログを使用すると、複数のストレージ ポリシーを選択して、それにカスタム ストレージ エントリ名を付けられるようになります。

カタログの作成中に有効にすると、ストレージ カタログは任意のカタログにマッピングされます。マッピングされたカタログを使用してサービスを発行すると、**ストレージ階層**を選択できるようになります。

仮想ストレージ カタログの設定

ステップ 1 [ポリシー] > [ストレージ] の順にクリックします。

ステップ 2 [仮想ストレージのカタログ] タブを選択します。

ステップ 3 [追加] (+) をクリックします。

ステップ 4 [仮想ストレージのカタログ] ダイアログボックスで、以下のフィールドを入力します。

名前	説明
[カタログ名] フィールド	カタログの名前。カタログのカスタム アクションを定義する際は、この名前が使用されます。
[カタログの説明] フィールド	カタログの説明。
[クラウド名] ドロップダウン リスト	クラウド アカウントを選択します。
[エントリ数の選択] ドロップダウン リスト	エントリの数を 1 ~ 10 の範囲で選択します。選択した数に応じて、ストレージ エントリ オプションが次のダイアログボックスに表示されます。

ステップ 5 [次へ] をクリックします。

ステップ 6 [エントリの追加] ペインで、以下のフィールドを入力します。

名前	説明
ストレージ エントリ #1	
[ストレージエントリ名] フィールド	ストレージ エントリの名前。
[ストレージポリシー] ドロップダウン リスト	ストレージ ポリシーを選択します。
ストレージ エントリ #2	
[ストレージエントリ名] フィールド	2 つ目のポリシーのストレージ エントリ名。
[ストレージポリシー] ドロップダウン リスト	ストレージ ポリシーを選択します。

ステップ 7 [送信] をクリックします。

(注) カatalogの作成中に仮想ストレージ カatalogをマッピングする場合は、第 8 章「[カatalogの管理](#)」を参照してください。

(注) サービス リクエストの作成中にストレージ階層オプションを表示する場合は、第 9 章「[セルフサービス プロビジョニングの使用法](#)」を参照してください。

ネットワーク ポリシー

ネットワーク ポリシーには、ネットワーク設定、DHCP、固定 IP などのリソースと、このポリシーでプロビジョニングされる VM 用に複数の vNIC を追加するオプションが含まれます。

ネットワーク ポリシーの追加

ステップ 1 [ポリシー] > [ネットワーク] の順にクリックします。

ステップ 2 [VMware ネットワークポリシー] タブを選択します。

ステップ 3 [追加] (+) をクリックします。

ステップ 4 [VM ネットワークポリシー] ダイアログボックスで、以下のフィールドを入力します。

名前	説明
[ポリシー名] フィールド	ネットワーク ポリシーの名前。
[ポリシーの説明] フィールド	ポリシーの説明。
[クラウド名] ドロップダウン リスト	そのポリシーが適用されるクラウド アカウントを選択します。
[ポートグループタイプ] ドロップダウン リスト	ポート グループのタイプを選択します。
[ポートグループ名] チェック リスト	[選択] をクリックし、ポート グループを選択します。このリストは、選択したポート グループ タイプに応じて変化します。
[テンプレートからアダプタをコピー] チェックボックス	カスタム設定が不要な場合はオンにします。カスタム設定を行う場合はオフにします。
[アダプタのタイプ] ドロップダウン リスト	アダプタのタイプを選択します ¹ 。
[DHCPの使用] チェックボックス	オフにすると、固定 IP アドレス設定の詳細が提供されます。デフォルトでは、このチェックボックスはオンになっています。
[固定 IP プール] フィールド	固定 IP アドレスまたは固定 IP アドレス プール。IP アドレスの範囲で指定します ² 。
[サブネットマスク] フィールド	VM の IP サブネット マスク ² 。
[ゲートウェイリスト] フィールド	VM のデフォルト ゲートウェイの IP アドレスを設定します ² 。

1. このオプションは、[テンプレートからアダプタをコピー] がオンの場合は表示されません。
2. このオプションは、[DHCPの使用] がオフの場合に表示されます。

ステップ 5 [次へ] をクリックします。

ステップ 6 [VM ネットワーク] ペインでは、複数の vNIC の追加と設定を実行できます。これらの vNIC は、当該ポリシーを使用してプロビジョニングされる VM に適用できます。

(注) プロビジョニングされた VM または検出された VM 用に VM アクションを使用して vNIC を追加または置換する場合は、その vNIC を設定しておく必要があります。

ステップ 7 (オプション) [追加] (+) をクリックします。

ステップ 8 [VM ネットワークへのエントリの追加] ダイアログボックスで、以下のフィールドを入力します。

名前	説明
[NIC エイリアス] フィールド	新しい NIC の名前。
[ポートグループタイプ] ドロップダウン リスト	ポート グループのタイプを選択します。
[ポートグループ名] チェック リスト	[選択] をクリックし、ポート グループを選択します。このリストは、選択したポート グループ タイプに応じて変化します。
[テンプレートからアダプタをコピー] チェックボックス	カスタム設定が不要な場合はオンにします。カスタム設定を行う場合はオフにします。
[アダプタのタイプ] ドロップダウン リスト	アダプタのタイプを選択します ¹ 。
[DHCP] チェックボックス	DHCP を使用して IP アドレスを割り当てる場合はオンにします。
[固定 IP プール] フィールド	固定 IP または固定 IP プール。

名前	説明
[ネットワークマスク] フィールド	ネットワーク マスク。
[ゲートウェイ IP アドレス] フィールド	ゲートウェア IP アドレス。

1. このオプションは、[テンプレートからアダプタをコピー] がオンの場合は表示されません。

ステップ 9 [送信] をクリックします。

ネットワーク プロビジョニング ポリシー

ネットワーク プロビジョニング ポリシーは、オーケストレーション ワークフロー タスクで使用されます。このポリシーは、ネットワーク内のスイッチに対して、レイヤ 2 ネットワークの設定とアクセス コントロール リスト (ACL) を定義するポリシーです。

ネットワーク プロビジョニング ポリシーの設定

ステップ 1 [ポリシー] > [ネットワーク] の順にクリックします。

ステップ 2 [ネットワークプロビジョニングポリシー] タブを選択します。

ステップ 3 [追加] (+) をクリックします。

ステップ 4 [ネットワークリソース割り当てポリシーの追加] ダイアログボックスで、以下のフィールドを入力します。

名前	説明
[ポリシー名]	ネットワーク ポリシーの名前。
[ポリシーの説明]	ポリシーの説明。
[クラウド名]	そのポリシーが適用されるクラウド アカウントを選択します。
[ポートグループタイプ]	ポート グループのタイプを選択します。
[ポートグループ名]	[選択] をクリックし、ポート グループを選択します。このリストは、選択したポート グループ タイプに応じて変化します。
[テンプレートからのアダプタのタイプのコピー]	カスタム設定が不要な場合はオンにします。カスタム設定を行う場合はオフにします。
[アダプタのタイプ] ドロップダウン リスト	アダプタのタイプを選択します ¹ 。
[DHCP の使用]	DHCP を使用して IP アドレスを割り当てる場合はオンにします。

1. このオプションは、[テンプレートからアダプタをコピー] がオンの場合は表示されません。

VLAN プール ポリシー

VLAN プール ポリシーは、データセンターの VLAN 範囲を定義するポリシーです。このポリシーは、ポリシーで指定された定義済みの範囲を起点とした、空いている VLAN ID を生成するオーケストレーション ワークフローで使用されます。

VLAN プール ポリシーの設定

- ステップ 1** [ポリシー]>[ネットワーク]の順にクリックします。
- ステップ 2** [VLAN プールポリシー] タブを選択します。
- ステップ 3** [追加] (+) をクリックします。
- ステップ 4** [ポリシーの追加] ダイアログボックスで、以下のフィールドを入力します。

名前	説明
[データセンター] ドロップダウンリスト	データセンターを選択します。
[ポリシー名] フィールド	ポリシー名。このポリシー名は、オーケストレーション ワークフローで使用されます。
[ポリシーの説明] フィールド	ポリシーの説明。
[VLAN 範囲] フィールド	VLAN の範囲。例：1、3、5～15。

- ステップ 5** [送信] をクリックします。

システム ポリシー

システム ポリシーは、使用するテンプレート、タイムゾーン、OS 固有情報など、システム固有の情報を定義するポリシーです。

システム ポリシーの設定

- ステップ 1** [ポリシー]>[サービスの提供]の順にクリックします。
- ステップ 2** [VMware システムポリシー] タブを選択します。
- ステップ 3** [追加] (+) をクリックします。
- ステップ 4** [ポリシーの追加] ダイアログボックスで、以下のフィールドを入力します。

名前	説明
[ポリシー名] フィールド	ポリシーの名前。カタログを定義する際は、この名前が使用されます。

[ポリシーの説明] フィールド	ポリシーの説明。
[VM名のテンプレート] フィールド	使用する VM 名テンプレートをを入力します。 (注) Cisco UCS Director では VM 名を自動作成できます。VM 名は、一連の変数名を使用して自動的に作成できます。各変数は、 <code>#{VARIABLE_NAME}</code> という形式にする必要があります。例： <code>vm-#{GROUP_NAME}-SR#{SR_ID}</code>

ステップ 5 [VM名のテンプレート] のオプション機能を選択します。

名前	説明
[エンドユーザVM名のプレフィクス] チェックボックス	オンにすると、(サービス リクエストの導入設定の作成中に) VM 名のプレフィクスを追加できます。
[導入後に電源をオンにします。] チェックボックス	オンにすると、そのポリシーを使用して導入されたすべての VM の電源が自動的にオンされます。
[ホスト名のテンプレート] フィールド	Cisco UCS Director では VM ホスト名を自動作成できます。ホスト名は、一連の変数名を使用して自動的に作成できます。各変数は、 <code>#{VARIABLE}</code> という形式にする必要があります。

ステップ 6 [ホスト名のテンプレート] の変数名を選択します。例：`#{VMNAME}`

ステップ 7 残りのフィールドを入力します。

名前	説明
[DNS ドメイン] フィールド	VM 用に使用する IP ドメイン。
[タイムゾーン] ドロップダウン リスト	タイム ゾーンを選択します。
[DNS サフィックスリスト] フィールド	DNS ルックアップ用に設定する DNS サフィックス。サフィックスが複数ある場合は、それぞれをカンマで区切ることができます。
[DNS サーバリスト] フィールド	DNS サーバの IP アドレスのリスト。サーバが複数ある場合はカンマで区切ります。
[VM イメージのタイプ] ドロップダウン リスト	VM にインストールするイメージの OS を選択します。[Windows と Linux] または [Linux のみ] を選択します。
Windows	
[製品 ID] フィールド	Windows の製品 ID またはライセンス キー。製品 ID またはライセンス キーは、このフィールドまたは OS ライセンス プールで入力できます。OS ライセンス プールで入力したキーが、ここで入力したキーよりも優先されます。
[ライセンス所有者名] フィールド	Windows のライセンス所有者の名前。
[組織] フィールド	VM に設定する組織名。
[ライセンスモード] ドロップダウン リスト	[シート別] または [サーバ別] を選択します。
[ライセンスユーザ数]	ライセンス ユーザ数または接続数。
[WINS サーバリスト] フィールド	WINS サーバの IP アドレス。値が複数ある場合はカンマで区切られます。
[自動ログイン] チェックボックス	オンにすると、自動ログインが有効になります。

名前	説明
[自動ログイン回数] フィールド	自動ログインの実行回数。
[管理者パスワード] フィールド	管理者アカウントのパスワード。
[ドメインまたはワークグループ] ドロップダウン リスト	[ドメイン] または [ワークグループ] を選択します。
[ワークグループ] フィールド	ワークグループの名前 ¹ 。
[ドメイン] フィールド	Windows ドメインの名前 ² 。
[ドメインユーザ名] フィールド	Windows ドメイン管理者のユーザ名 ² 。
[ドメインパスワード] フィールド	Windows ドメイン管理者のパスワード ² 。

1. このオプションは、[ワークグループ] を選択した場合に表示されます。

2. このオプションは、[ドメイン] を選択した場合に表示されます。

ステップ 8 [追加] をクリックします。

OS ライセンス

Cisco UCS Director では、[OS ライセンス] で Windows OS ライセンスを追加できます。これらのライセンスは、カタログの作成時に Windows イメージマッピングされます。

VMware システム ポリシーで Windows イメージに Windows OS ライセンスを提供することも、カタログの作成時に OS バージョン フィールドからキーを選択することもできます。



(注) カatalogの OS バージョン フィールドから選択した Windows キーが、VMware システム ポリシーで提供された Windows ライセンス キーよりも優先されます。

OS ライセンスの追加

ステップ 1 [ポリシー] > [サービスの提供] の順にクリックします。

ステップ 2 [OS ライセンス] タブを選択します。

ステップ 3 [追加] (+) をクリックします。

ステップ 4 [ライセンスの詳細の追加] ダイアログボックスで、以下のフィールドを入力します。

名前	説明
[Windows のバージョン名] フィールド	Windows のバージョン名。
[ライセンス] フィールド	Windows の製品 ID またはライセンス キー。このフィールドには、KMS クライアントの設定キーも入力できます。
[ライセンス所有者名] フィールド	Windows のライセンス所有者の名前。
[組織] フィールド	VM に設定する組織名。

[ライセンスモード] ドロップダウン リスト	[シート別] または [サーバ別] を選択します。
[ライセンス取得済みのユーザ数] フィールド	ライセンス ユーザ数または接続数。

ステップ 5 [送信] をクリックします。
